

# 第6次高浜市総合計画 中期基本計画

## 施策課題カルテ

目標

(6)産業を活性化して、まちを元気にします

〔とりまとめG〕 都市政策部 地域産業グループ

〔担当G〕 都市政策部 企業支援グループ

# I. 目標と目標の達成状況

## 1. 目指す姿と目安となる指標

目標	<b>(6) 産業を活性化して、まちを元気にします</b>					
目標達成に向けての考え方	働く場や消費の場として市民の日常の暮らしを支え、まちの活力を生み出す基盤である産業（農業・商業・工業など）を活性化するため、現場のニーズをふまえた振興策や、事業者やまちの強みを伸ばす取組みを応援していきます。					
目標が達成された姿	① 事業者やまちの強みを活かした産業活動が、活発に行われています。 ② 新たな雇用や消費が生まれ、市民生活の基盤が安定しています。 ③ まちの元気を生み出そうと、意欲を持った市民や団体が、ビジネスの手法による地域課題解決や活性化に向けた行動を起こしています。 ④ まちの魅力や自慢が市内外に知られ、高浜市で過ごす時間を楽しむ人が増え、賑わいや活気が生まれています。					
指標の状況	みんなで目指すまちづくり指標	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)
	1) 市内の法人数	898 社	922 社 ↗	894 社 ↘		930 社
	2) 行政がかかわるイベントの来場者数	76,000 人	99,000 人 ↗	96,000 人 ↘		100,000 人

## 2. 市民意識調査結果

設問	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)
産業が活性化して、まちが元気になっていると思う	26.9%	28.4% ↗	23.9% ↘		

## 3. 「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析(要因・課題等)

◎中期基本計画期間中（H26～H29）の「指標の状況」や「市民意識調査結果」の結果を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因といった分析内容を記載する。

※平成 29 年 6 月に「施策評価」（内部評価）を行う段階で、記入内容を差し替える。

- ・指標 1) 「市内の法人数は、昨年度と比較して 28 社減少した。これは昨年度の事業所の抽出条件が「確定申告をした述べ法人数」であったことによる。策定当時の法人数は 898 社であり、窯業関係の事業所の減少が目立ち、策定当時と比較すると 4 社減少している。
- ・指標 2) 「行政が関わるイベントの来場者数」（鬼みちまつり来場者数、かわら美術館来館者数）は、昨年度と比べて 3,000 人減少した。内訳としては鬼みちまつりの減少分であるが、平成 26 年度は 3 回開催しており、2 回開催の平成 27 年度が 3,000 人減少にとどまったことは全体の来場者数の増加によるものと分析している。
- ・市民意識調査、みんなで目指すまちづくり指標ともに下降しており、市民意識調査の結果としては、景気上昇の恩恵を大手企業ほど中小企業が受けていないことに起因すると考える。指標については工業立地などの積極的な企業誘致を行うとともに、中小企業に対する資金調達に対するセーフティネットを堅実に行うことで法人数の増加を目指すとともに、若い世代がまちの活性化に寄与する仕組みづくりを充実させることで、世代全体でまちがげんきになっていると実感できる取組に注力していく必要がある。

#### 4. 「目標」と「みんなで目指すまちづくり指標」の適切性

##### 指標1) 市内の法人数

設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まちの活力を生み出す基盤である産業が活性化することは、まち自体が元気になっていくことに繋がる。そのためには、企業誘致を進めるとともに、既存企業の頑張りを支えていくことが必要であり、現場のニーズをふまえ、事業者、関係機関と連携し、産業の活性化、雇用の安定に向けた取り組みを進めることにより、市内の法人数増を目指す。</li> <li>• なお、生産年齢人口が微増ではあるが、これまでの事業所数の推移（年平均0.2%増）を考慮して、930社を目標値とした。</li> </ul>
指標の見直し	なし
目標値の適切性	◎事業の目的としての企業誘致に対する直接的な指標としての法人数及び市内法人数の設定は適切なものであると考え据え置きとする。

##### 指標2) 行政がかかわるイベントの来場者数

設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まちに賑わいや活気があることは、まちが元気であるということに繋がる。そのためには、まちの賑わいの創出や交流人口を拡大することが必要であり、高浜市の魅力や自慢を市内外に知らせるための情報発信や、市内における地域資源を、市民、事業者、関係機関が連携して繋ぐことにより、高浜の魅力を磨き、高浜の自慢へと育成し、来場者数の増加をめざす。</li> <li>• なお、目標値については、屋外のイベントは天候の影響もあるが、ご当地グルメのとりめし効果を踏まえ、過去5年間の来場者数の最高値である100,000人を目標値とした。</li> </ul>
指標の見直し	なし
目標値の適切性	◎毎年開催される鬼みちまつりなど、来場者数は上昇傾向にあるため、目標値は据え置きとする。

## Ⅱ. 目標達成のための取り組み

### 1. 「こんなことに取り組みます！」を構成するアクションプラン一覧

こんなことに取り組みます！	アクションプラン事業名	
<p>(1) 行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企業誘致を進めます。</p>	H26	【No.25】工業用地創出事業 【No.26】企業誘致事業
	H27	【No.24】工業用地創出事業 【No.25】企業誘致事業
	H28	【No.24】工業用地創出事業 【No.25】企業誘致事業
	H29	【No.22】工業用地創出事業 【No.23】企業誘致事業
<p>(2) 事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取り組みを進めます。</p>	H26	【No.27】がんばる事業者応援事業 【No.28】地場産業振興事業 【No.29】農業経営安定推進事業
	H27	【No.26】がんばる事業者応援事業 【No.27】地場産業振興事業 【No.28】農業経営安定推進事業
	H28	【No.26】がんばる事業者応援事業 【No.27】地場産業振興事業 【No.28】農業経営安定推進事業
	H29	【No.24】がんばる事業者応援事業 【No.25】地場産業振興事業 【No.26】農業経営安定推進事業
<p>(3) コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行います。</p>	H26	【No.30】コミュニティ・ビジネス創出支援事業
	H27	【No.29】コミュニティ・ビジネス創出支援事業
	H28	【No.29】地方創生加速化交付金事業
	H29	【No.27】地方創生推進交付金事業
<p>(4) 自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取り組みを行います。</p>	H26	【No.31】観光推進事業
	H27	【No.30】観光推進事業
	H28	【No.30】観光推進事業
	H29	【No.28】観光推進事業

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(1)行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企業誘致を進めます。		
アクションプラン事業名	H26～H29 工業用地創出事業 企業誘致事業	担当部・グループ	都市政策部 企業支援グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①企業の景気動向や投資意欲を把握するため企業訪問を実施した。		H26.8～
	②工場緑化に関するアンケート調査を実施し、工場立地法に規定する緑地率等の規制緩和を実施した。		H26.9～
	③市北部地区の養鶏業を営む方を対象に意向調査を実施した。		H27.3～
平成27年度	①市東部地区の工業用地創出に向け、関係機関と協議した。		H27.4～
	②市北部地区の整備構想策定業務委託を専門業者に発注し、土地所有者に対する意向調査を実施した。		H27.7～
	③愛知県企業庁が市東部地区の開発を公表した。		H28.3
平成28年度	①市東部地区の工業用地の創出に向け、開発事業者である愛知県企業庁や土地改良区などの各種関係団体と造成工事の着手に向けた協議・調整を実施した。		H28.4～
	②市北部地区の工業用地の創出に向け、関係機関や進出希望企業と協議・調整を実施した。		H28.4～
	③市東部地区の開発計画に対する周知を図るため、地区説明会を開催した。		H28.5
	④市北部地区の開発計画に対する理解を得るため、土地所有者に対し説明会を開催した。		H28.12
	⑤企業と工場建設などの新たな設備投資に伴う協議・調整を行った。		H28.4～
	⑥奨励金及び補助金の交付申請の受付・審査・交付手続きを行った		H28.4～
	⑦企業の新たな設備投資に対し、奨励対象の認定を行った。		H28.6～
	⑧企業の再投資に対し、補助対象の認定を行った。		H28.8～
平成29年度 (予定)	①市東部地区は、平成31年2月末の造成工事完了を目指し、工事に関係する機関とより一層の連携を図る。		H30.3
	②市北部地区は、早期の造成工事への着手を目指し、関係機関や関係者と各種手続きなどの協議・調整を実施する。		H30.3
	③企業の景気動向や投資意欲を把握するため、企業訪問を実施する。		H30.3
	④支援制度をPRし、支援制度を活用する新たな企業を発掘する。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の産業経済の活性化に向け、2地区の新たな工業用地創出事業の推進、工場立地法に基づく緑地面積率の緩和措置を講じるなど、市内企業のニーズにあわせ新たな施策を講ずることができた。また、奨励金や補助金の交付により新たな企業の誘致や市内企業の市外などへの流出防止を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高浜市第6次総合計画の土地利用構想図に位置づけられた新たな工業系地区は臨海部も含め6地区あり、その内、事業が進んでいない地区が約39.0haある。近年、臨海部でも新たな工場の建設、設備投資がされていることから、今後、企業の景気動向や投資意欲を把握しながら、整備方針が決まっていない約39.0haの企業立地の検討を進める必要がある。</li> </ul>		
特記事項			

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(2)事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。		
アクションプラン 事業名	H26～H29 がんばる事業者応援事業 地場産業振興事業 農業経営安定推進事業	担当部・グループ	都市政策部 企業支援グループ 都市政策部 地域産業グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①特産野菜の普及に向け、ジャンボ落花生の種を市内の農家に配布・栽培し、鬼みちまつりなどで販売した。		H26.5～
	②がんばる事業者応援事業において、企業の経営状況の把握、制度をPRするため企業訪問を実施した。		H26.8～
	③議員提案による瓦の利用促進を図るための条例である「みんなで三州瓦をひろめよう条例」を制定した。		H26.12
平成27年度	①公共建築物等三州瓦屋根工事奨励補助金により高浜港駅舎の新築駅舎に瓦が使われるよう名鉄と協議し、建設につなげた。		H27.4～
	②農地の多面的機能発揮促進事業として、地元こども会・町内会と連携し高取みどり会が落花生植栽会を開催した。		H27.5
	③ふるさと名物応援宣言で三州瓦を応援した。		H27.9
平成28年度	【がんばる事業者応援事業】		
	①国などが実施されている各種補助制度の把握及び活用実績を調査し、「がんばる事業者応援事業」の当初の目的・一定の役割は終えたと判断したことから、制度の廃止を実施した。		H28.4～
	②補助金交付申請の受付・審査・交付手続きを行った。		H28.4～
	【地場産業振興事業】		
	③市内瓦利用者に対する補助を行った。		H28.4～
	④造園による瓦材活用を補助対象とした。		H28.4～
	⑤商工会主催三州瓦宣伝活動の協力を行った。		H28.8～
平成29年度 (予定)	【農業経営安定推進事業】		
	⑥落花生営農部会に愛知県農業改良普及課による栽培講習会を実施した。		H28.4
	⑦地元子ども会・町内会との連携による高取みどり会主催の落花生植栽会を実施		H28.5
	【地場産業振興事業】		
	①屋根材及び庭のエクステリアの瓦材の市内瓦利用者に対する補助を行う。		H30.3
②三州瓦のブランド化に向けた国の制度の活用、商品開発支援を行う。		H30.3	
③効果的な三州瓦PR活動について業界との協議を行う。		H30.3	
平成29年度 (予定)	【農業経営安定推進事業】		
	①落花生栽培研修会として、愛知県農業改良普及課の指導員による研修会を実施する。		H29.4
	②ジャンボ落花生のスムーズな新規参入支援を実施する。		H29.5
	③農地の多面的機能発揮促進事業として、地元こども会・町内会と連携し高取みどり会が落花生植栽会・収穫祭を開催する。		通年
	④市外イベントでのジャンボ落花生の販売を支援する。		通年
⑤農村生活アドバイザー及び落花生生産者によるジャンボ落花生の加工品の試作を行う。		通年	



「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	【成果】  【課題】
特記事項	

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(3)コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行います。		
アクションプラン 事業名	H26・27 コミュニティ・ビジネス創出支援事業 H28 地方創生加速化交付金事業 H29 地方創生推進交付金事業	担当部・グループ	都市政策部 地域産業グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①地域においてコミュニティ・ビジネスを創業しようとする「チャレンジャー」の発掘を行った。		H26.4
	②チャレンジャーを応援団が志縁する「支援は志縁 志縁◎循環動く円卓会議」を開催した。		H26.11 H27.3
	③コミュニティ・ビジネスの創業に向け、チャレンジャーの特定非営利活動法人設立を支援した。		H26.11 H27.3
平成27年度	①地域においてコミュニティ・ビジネスを創業しようとするチャレンジャーの発掘に取り組んだ。		H27.5～
	②創業したチャレンジャーの不安解消支援（フォローアップ）を行った。		H27.11～
	③チャレンジャーの未来予想・理念形成の確認をした。		H27.12
平成28年度	①庁内プロジェクトチームの発足をを行った。		H28.4
	②高浜高校生1年生へのSBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）参加呼びかけを行った。		H28.7
	③高校生によるSBP活動の推進を図った。		H28.8
	④高校生と市内鬼瓦事業者へのマッチングを行った。		H28.8
	⑤コミュニティ・ビジネスフォーラムを実施した。 コミュニティ・ビジネスセミナーを実施した。		H28.6 H28.7
平成29年度 (予定)	①チャレンジャーの活動に対するサポートを行う。		通年
	②チャレンジャーの事業構想構築を図る。		通年
	③チャレンジャーに対する支援体制の構築を図る。		通年
	④創業し、活動中のチャレンジャーのフォローアップサポートを行う。		通年
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>◎地域の身近な課題を地域自らが解決させるためにボランティア活動だけではなく、ビジネス手法を用いた継続性を担保した活動を支援した。平成28年度からは高浜高校生を対象にしたソーシャル・ビジネス・プロジェクトを実施し、地域資源を高校生のビジネス手法を用いた活動を通じて発掘、PRした。</p> <p>【成果】</p> <p>&lt;創業支援&gt; 平成26年度に1団体、平成27年度に2団体の創業支援（法人設立支援）</p> <p>&lt;運営支援&gt; 平成27年度に1団体、平成28年度に2団体の運営支援（フォローアップ）</p> <p>&lt;高校生SBP活動&gt; 平成28年度に高浜高校生によるSBP活動の開始</p> <p>【課題】 高校生の活動の部活動化の実現や法人化の実現</p>		
特記事項			



2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(4)自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取り組みを行います。		
アクションプラン 事業名	H26～H29 観光推進事業	担当部・グループ	都市政策部 地域産業グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①観光案内所 (ONHouse) での特産物販売に対する支援を行った。		H26.4～ H27.3
	②観光案内所創造委員会に参加し、観光資源の発掘及び集客に向けた取り組みを検討した。		H26.5～ H27.3
	③観光案内所 (ONHouse) での賑わい創出のため、毎月第1日曜日に開催したオニマルシェ及び市民マラソン大会と連携した出張オニマルシェ開催に対する支援を行った。		H26.5～ H27.3
平成27年度	①鬼みちまつりアンケートの実施(対象：来場者・出展者)をした。		H27.10 H28.2
	②B-1グランプリなど市外の高浜市PRイベントに参加し、高浜市をPRした。		H28.3
	③西三河広域観光協議会にて Web ガイドによる周遊ルート作成システムを作成した。		H28.3
平成28年度	①鬼みちまつり実行委員会が実施する鬼みちまつりに対し、職員の人的支援や関係機関との調整を図った。		H28.10
	②西三河広域観光協議会にて Web ガイドによる周遊ルートシステムの運用を開始した。		H28.4～
	③B-1グランプリ中部地区大会及び全国大会にて高浜市のPRを行った。		H28.9
平成29年度 (予定)	①鬼みちまつり実行委員会が実施する鬼みちまつりに対し、職員の人的支援や関係機関との調整を図る。		H29.10
	②観光案内所創造委員会に参加し、共に新たな観光資源の発掘を行う。		H30.3
	③ふるさと寄付金ラインナップの充実のために連携を図る。		H30.3
	④B-1 グランプリなど市外の高浜市PRイベントに参加し、高浜市をPRする。		H30.3
	⑤観光協会が行う発掘された観光資源の有効的なPRを支援する。		通年
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>◎秋の鬼みちまつりの来場者数は平均して17,000人ほどになるなど、市民が主体となって活動する高浜市観光協会による賑わいの創出は順調である。</p> <p>【成果】 鬼みちまつりにおける賑わいの創出に加え、平成28年度においては「東海・北陸B-1グランプリ in 富士」において、市、瓦業界、観光協会が連携をして高浜市の紹介を行い、結果として高浜とりめし学会が4位入賞をするなど、産業分野、観光分野を統合した取り組みの実現がされた。また、ふるさと寄付金の謝礼品ラインナップを充実した。</p> <p>【課題】 今後は、市民主体の活動としての「賑わい創出」の手法としての観光活動に加え、産業活性化に対してどのように観光を結び付けていくのかを検討していく必要がある。</p>		
特記事項			

### Ⅲ. 今後の取り組みの方向性

#### 1. 今後予想される社会変化や動向、新たな課題

- 2020年の東京オリンピックによる全国的な観光分野の施策充実、特にインバウンド（外国人が訪れてくる旅行）に対する施策充実が国・県においても実施されていくが、サイトシーイングとしての観光では他の風光明媚な観光地域には太刀打ちができない。産業の活性化の課題でもある伝統産業である鬼瓦などの「ものづくり」を効果的に世界に発信していく手法を確立する必要がある。
- 我が国は人口減少時代を迎え、将来的な市場の発展が見込めず、また、企業にとっては人材確保が困難な状況となることが想定される。このことにより、新たな工場立地など国内投資が抑制されることを懸念する。

#### 2. 今後、特に力を入れる取り組み（優先度の高いもの3つ）

##### (1) 新たな工業用地の創出に向けた検討

- 近年、投資意欲が高い企業が多い。このことから、市東部地区や市北部地区の次なる工業用地を創出することが、本市の将来に亘った財政基盤の強化、地域雇用の創出に繋がる。また、第6次高浜市総合計画の後期基本計画及び第7次の策定に向け、この計画で新たな工業系地区に位置づけられた地区の内、未だ、整備方針が決まっていない地区の企業立地に向けた方向性を検討する必要がある。

##### (2) 地場産業の三州瓦の販売方法の検討

- 熊本地震など、震災の度に報道される瓦の風評被害の払しょくのための対応を検討するとともに、瓦の伝統性を生かした商品開発やブランド化の支援を行い、屋根瓦の優位性やデザイン性のPRをする。

##### (3) 高校生SBP活動の推進

- 西三河地区の主要産業である自動車産業にスポットライトを当て、伝統的地場産業である瓦を結びつけたキャラクター焼き（Sの絆焼き）をSBP活動を行っている他地域の高校をはじめとして全国的にPRすることで高浜の産業を広くPRするとともに、高校生の継続的な活動の維持のための組織体制の確立を図る。

### Ⅳ. 施策(目標)構成の検証

特に変更はない